

## 病床数適正化支援事業について

## 1 事業の概要

- ・医療機関の経営状況の急変に対応する国の緊急支援パッケージとして令和6年度補正予算により事業化
- ・病床数の適正化（減床）を進める医療機関に給付金を支給するもの（減床1床あたり4,104千円）

## 2 群馬県への国の内示

- ・群馬県の要望額約30億円（753床分）に対し、国の内示は約4億円（100床分）（全国の要望額 約2千億円（約5万床）に対し、国の内示は約294億円（約7千床）
- ・医療圏ごとの対象病床数は下表のとおり（対象となった医療機関の情報は非公表）

医療圏	一般病床		精神病床	計
	病院	診療所		
前橋	7	2	0	9
伊勢崎	0	0	6	6
渋川	0	0	10	10
高崎・安中	12	1	0	13
藤岡	0	0	0	0
富岡	2	0	0	2
吾妻	14	2	0	16
沼田	11	0	0	11
桐生	15	1	0	16
太田・館林	8	0	9	17
計	69	6	25	100

※上表は国の内示に基づき対象となる病床を医療機関ごとに配分したものであり、実際の申請状況等によっては削減数に変更になる場合がある。

- ・対象となった医療機関が給付金の支給を受けるためには、令和7年9月末までに病床を削減する必要がある。

## 令和7年度 富岡保健医療圏における医療機能等の現況

## 1 地勢、人口

## (1) 地勢

本県の南西部に位置し、1市3町村（富岡市、甘楽郡下仁田町、南牧村、甘楽町）により構成されている。周辺を山に囲まれ2つの保健医療圏（高崎・安中、藤岡）と隣接している。

## (2) 人口

県内10保健医療圏のうち、吾妻保健医療圏、藤岡保健医療圏に次いで3番目に人口が少ない地域である。人口密度についても、吾妻保健医療圏、沼田保健医療圏に次ぎ3番目に低い医療圏である。

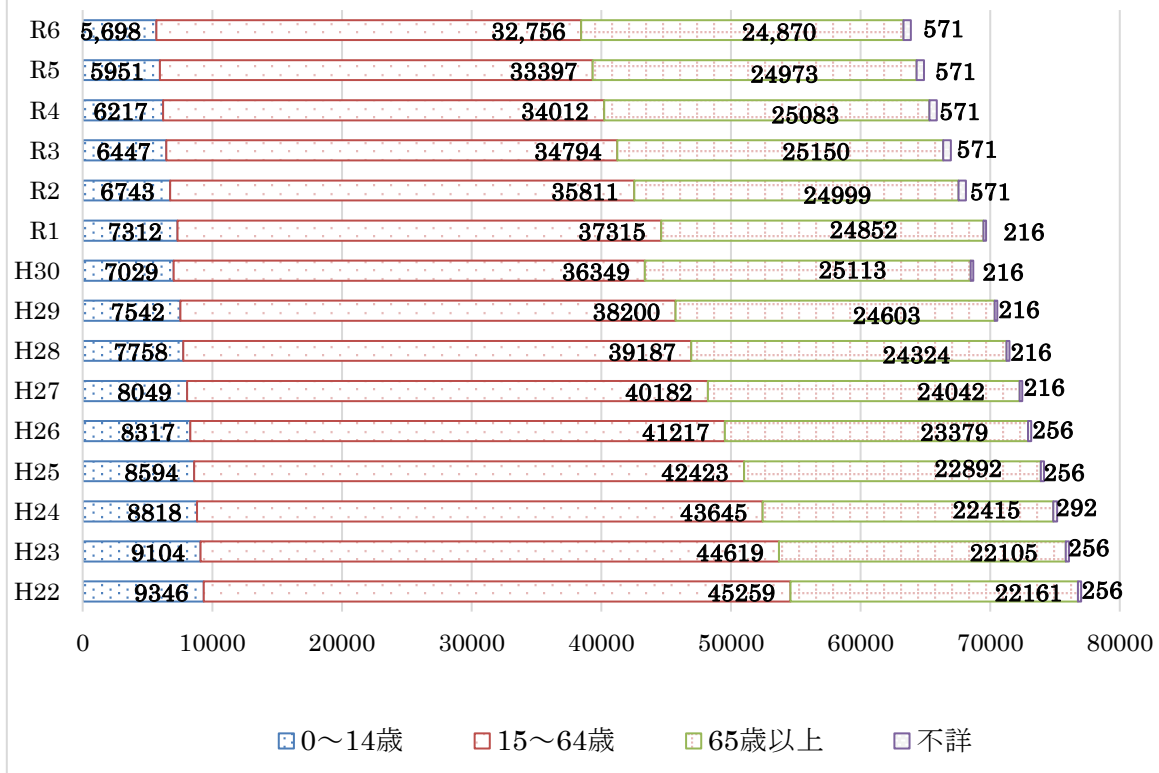
当医療圏の人口は減少傾向だが65歳以上の人口割合は例年増加している。

	富岡保健医療圏	県全体	県全体に占める割合
面積	488.66 km <sup>2</sup>	6,362.28 km <sup>2</sup>	7.7%
人口	63,895 人	1,889,525 人	3.4%
人口密度	130.8 人/km <sup>2</sup>	297.0 人/km <sup>2</sup>	—
0～14歳人口割合	8.9%	10.9%	—
65歳以上人口割合	38.9%	33.3%	—

出典：群馬県「群馬県年齢別人口統計調査結果」（令和6年10月1日時点）

※以下、人口については同出典による

(参考) 富岡保健医療圏における年齢3区分別人口の推移



## 2 医療機能の現状

### (1) 医療機関数

人口10万人当たりの医療機関数について、病院、歯科診療所は県全体を下回り、一般診療所は上回っている。

	富岡保健医療圏		県全体	
	医療機関数	人口10万人当たり	医療機関数	人口10万人当たり
病院	4	6.3	127	6.7
一般診療所	57	89.2	1,564	82.8
歯科診療所	28	43.8	976	51.2

出典：群馬県病院要覧（令和7年3月末時点）

### (2) 病床数

令和7年3月末における当医療圏の既存病床数は、基準病床数をわずかに下回っているが、急性期及び回復期の病床数は将来の必要病床数を上回っているため、既存病床数の増加を伴う事前協議の受付は、高度急性期、慢性期についてのみ行う。

人口10万人あたりに占める既存病床数の割合は県全体と同程度の整備状況となっており、既存病床数のうち、一般病床は県全体を上回り療養病床数は下回っている。

保健医療計画 (R6.4.1 施行)		令和7年3月31日時点					
基準 病床数 (A)	既存 病床数	既存病床数			差 (B-A)	公示後の 病床増減	参考 (特定 病床数)
		合計 (B)	一般病床	療養病床			
577	571	571	464	107	▲6	▲22	0

		富岡保健医療圏		県全体	
		病床数	人口10万人当たり	病床数	人口10万人当たり
一般 療養	基準病床数	577	903.0	16,001	846.8
	既存病床数	571	893.7	17,229	911.8
	一般病床	464	726.2	1,3387	708.5
	療養病床	107	167.5	3,842	203.3
精神病床		360	563.4	4,977	263.4
結核病床		0	—	65	3.4
感染症病床		4	6.3	52	2.8

※精神・結核・感染症の基準病床数は全県一区。

(令和7年3月31日時点)

### (3) 介護老人保健施設及び特別養護老人ホームの定員数

10万人当たりの介護老人保健施設定員数及び特別養護老人ホーム定員数は、いずれも県全体を大幅に上回っている。

	富岡保健医療圏		県全体	
	定員数	人口10万人当たり	定員数	人口10万人当たり
介護老人保健施設	350	547.8	6,516	344.8
特別養護老人ホーム	669	1,047.0	12,977	686.8

(令和7年4月1日時点)

#### (4) 病床利用率

当医療圏の全体の病床利用率は、県全体を上回っており、一般病床、療養病床は県全体を下回っている。精神病床については9割を超えほぼ満床となっている。

病床利用率	富岡保健医療圏 (%)	県全体 (%)	県全体との差
総数	78.9	77.5	1.4 ポイント
精神科病院	—	87.9	—
一般病院	78.9	75.8	3.1 ポイント
一般病床	65.0	70.2	▲5.2 ポイント
療養病床	82.1	84.7	▲2.6 ポイント
精神病床	95.4	91.4	4.0 ポイント
結核病床	—	29.6	—
感染症病床	318.8	451.1	▲132.3 ポイント

出典：健康福祉統計年報（令和7年刊行）

#### (5) 平均在院日数

当医療圏の平均在院日数は、一般病床、療養病床は県全体を下回り、精神病床は県全体を上回っている。

平均在院日数	富岡保健医療圏 (日)	県全体 (日)	県全体との差
総数	29.5	27.8	1.7 ポイント
精神科病院	—	266.9	—
一般病院	29.5	23.8	5.7 ポイント
一般病床	14.4	16.9	▲2.5 ポイント
療養病床	77.2	104.9	▲27.7 ポイント
精神病床	493.8	354.7	139.1 ポイント
結核病床	—	77.3	—
感染症病床	10.7	11.1	▲0.4 ポイント

出典：健康福祉統計年報（令和7年刊行）

#### (6) 救急医療

##### ア 初期救急医療機関

休日は富岡市甘楽郡医師会休日診療所が対応している。

##### イ 二次救急医療機関

群馬県保健医療計画の基準を満たし、計画に掲載している当医療圏の二次救急医療機関（救急告示医療機関、救急協力医療機関）は次の4か所である。

公立富岡総合病院、下仁田厚生病院、アライクリニック、大竹外科胃腸科

##### ウ 救急告示医療機関、救急協力医療機関

当医療圏の救急告示医療機関は2か所（令和6年5月31日現在）が認定を受け、当医療圏の救急協力医療機関は2か所（令和6年4月1日現在）が指定されている。

##### エ 小児救急

夜間及び休日日中の二次救急については県の小児救急医療支援事業により、次の3病院の輪番制で365日対応している。

高崎総合医療センター、公立藤岡総合病院、公立富岡総合病院

### (7) 災害医療

当医療圏では災害発生時に、地域で中心的な役割を担う地域災害拠点病院が1病院整備されている。

	医療機関名	DMAT チーム数
地域災害拠点病院	公立富岡総合病院	2

(令和6年3月22日時点)

### (8) 在宅医療

在宅医療の担い手である在宅療養支援診療所の当医療圏における人口10万人当たりの施設数は県全体に比べて多くなっている。

	富岡保健医療圏		県全体	
	施設数	10万人当たり	施設数	10万人当たり
在宅療養支援診療所	13	20.3	262	13.9
在宅療養支援歯科診療所	3	4.7	77	4.1
訪問薬剤指導を実施する薬局	5~7	7.8~11.0	215~223	11.4~11.8
訪問看護ステーション	7	11.0	371	19.6

出典：関東信越厚生局群馬事務所届出状況(令和7年4月1日時点)

レセプト情報・特定健診等情報データベース(令和6年度)※

群馬県健康福祉部福祉局介護高齢課調べ(訪問看護ステーション数：令和7年4月時点)

※「レセプト情報・特定健診等情報の提供に関するガイドライン」により、集計数が少数の場合に非公開となる情報が含まれるため、公開情報から推定される範囲の数値を記載。

## 3 入院患者の状況

### (1) 入院患者数

一日に当医療圏の医療機関を受診する患者数を人口10万人当たりで比べると、当医療圏の入院は県全体より約500人多い。

	富岡保健医療圏		県全体	
	患者数	人口10万人当たり	患者数	人口10万人当たり
総数	801	1,196	18,888	981
入院	801	1,196	18,540	962
有床診療所	0	0	348	18

出典：令和3年群馬県患者調査

### (2) 入院患者における流出患者割合、流入患者割合

当医療圏に居住する患者のうち、他医療圏の医療機関に入院した患者は27.4%であり、高崎・安中保健医療圏(14.5%)、前橋保健医療圏(4.5%)、渋川保健医療圏(2.7%)、伊勢崎保健医療圏(2.7%)等への流出がある。

また、当医療圏の医療機関に入院した患者のうち、他医療圏に居住する患者は、34.0%であり、高崎・安中保健医療圏(26.0%)、藤岡保健医療圏(4.6%)、県外(2.2%)等からの流入がある。

	流出患者割合	流入患者割合
入院患者	27.4%	34.0%
一般病床	30.2%	29.5%
療養病床	29.3%	24.4%

出典：令和3年群馬県患者調査

### (3) 疾病別患者割合

ICD10 疾病分類別の患者構成割合では、当医療圏は県全体との著しい差は見られないが、「5.精神及び行動の障害」では県全体よりも約15ポイント高くなっている。

ICD10 疾病分類 (章別)	富岡保健医療圏	県全体
1. 感染症及び寄生虫症	1.6%	1.4%
2. 新生物	7.8%	9.6%
3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	0.5%	0.6%
4. 内分泌,栄養及び代謝疾患	1.9%	2.2%
5. 精神及び行動の障害	38.0%	22.8%
6. 神経系の疾患	4.4%	7.5%
7. 眼及び付属器の疾患	0.1%	0.5%
8. 耳及び乳様突起の疾患	0.3%	0.2%
9. 循環器系の疾患	11.7%	16.1%
10. 呼吸器系の疾患	5.5%	7.2%
11. 消化器系の疾患	4.0%	5.4%
12. 皮膚及び皮下組織の疾患	0.8%	1.1%
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患	7.0%	6.2%
14. 腎尿路生殖器系の疾患	4.7%	4.8%
15. 妊娠、分娩及び産じょく	0.5%	1.5%
16. 周産期に発生した病態	0.3%	0.6%
17. 先天奇形,変形及び染色体異常	0.7%	0.6%
18. 症状,徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.3%	0.5%
19. 損傷,中毒及びその他の外因の影響	9.3%	10.6%
21.健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.5%	0.2%
22.特殊目的コード (新型コロナウイルス感染症 (疑いを含む))	0.0%	0.3%
不詳	0.0%	0.1%

※「20. 傷病及び死亡の外因」は疾病では無いため、集計対象外。 出典：令和3年群馬県患者調査

### (4) 死因別死亡数

当医療圏の死亡数を死因別に見ると、「老衰」と「心疾患」は県全体と順位が逆になっているが、県全体の死因別構成とほぼ一致している。

	富岡保健医療圏		県全体	
1位	悪性新生物	20.4%	悪性新生物	22.6%
2位	老衰	14.6%	心疾患	14.7%
3位	心疾患	11.1%	老衰	10.4%
4位	脳血管疾患	6.1%	脳血管疾患	7.1%
5位	肺炎	4.7%	肺炎	5.7%

出典：群馬県「令和5年群馬県の人口動態統計概況 (確定数)」